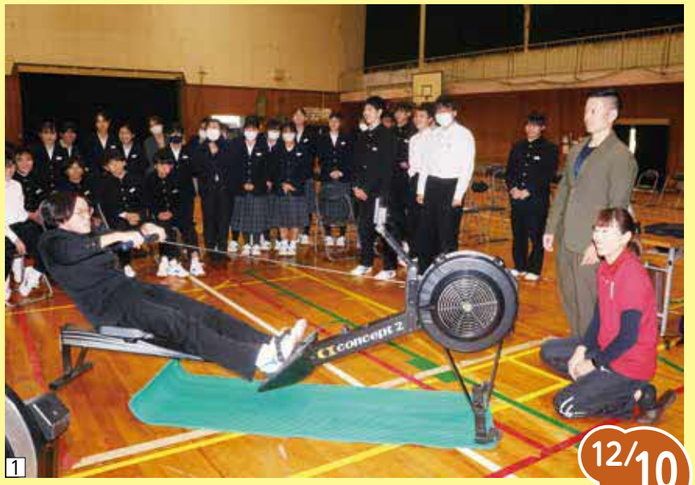


12/10 TUE

パラアスリートに学ぶ

玖波中学校・玖波小学校

宮島ローイングクラブに所属する高野紋子（あやこ）さんが、玖波中学校で『私の大切にしていること』と題して講演をしました。高野さんは目の病により、現在はほとんど視力を失っています。しかしローイングという漕艇競技と出合い、2023年中国で開かれた『杭州アジアパラ競技大会』に出場するなどの活躍をしている方です。高野さんは「失敗だと思わず経験だと思って、できることは精一杯やろう」とチャレンジすることの大切さを生徒たちに伝えました。講演後、生徒たちはローイングマシンに挑戦。相当な筋力がいることを実感したようです。

翌週は玖波小学校で5・6年生と玖波中の1・2年生を前に、走り幅跳びやスノーボードの選手として5度のパラリンピックに出場した山本篤さんの講演がありました。高校生のとき事故で左脚を失ったなかで、競技用義足と出合い陸上競技に挑戦していくことになった山本さん。「いろいろなことにチャレンジしていくなかで、得意なものを見つけていこう」と訴えました。体験用の義足を着けて歩いた柿本頼人（らいと）くん（6年）は「バランスがとりにくかった。これで走るってすごい」と感嘆の声でした。

1屋内用のローイングマシンを体験する玖波中生徒を見守る高野さん（右）2体験用義足を着けて歩いたり跳ねたりする児童を見つめる山本さん 3バランスを取るのが難しいが、子どもたちは意外に慣れるのも早い。

12/17 TUE

平安時代の舞踏会

玖波公民館

『かぐや姫』をテーマにした『KUBA舞踏会』。大きな竹の置物や月などが飾りつけられた会場には、平安時代の烏帽子（えぼし）姿や和服など、ドレスアップした70人が集まりました。まずは、かぐや姫の物語の元になった『竹取物語』の歴史や登場人物についての講話に参加者は興味深げ。その後、ワインやお菓子の歴史、大竹の食についての話（まさのり）と続き、生演奏を聴きながら、『日本料理魚池』の池田将訓さんが地元食材を使って調理した『かぐや姫』と『クリスマス』をテーマにした料理を味わいました。さらに、着付けの実演やダンスショータイム、プレゼント交換などのプログラムに盛り上がった会場でした。

フォークグループ『かぐや姫』の歌を弾き語りしたKENGOさんは「参加者が活気に満ちていて楽しく演奏できた」と笑顔を見せてくれました。

1楽しいひとときの思い出に記念撮影 2満月を背景に魚池の池田夫妻と料理（あたたハマチのおすし、月に見立てたクッキーシューなど） 3いざダンスショータイム 4歴史愛好家の香川晶則さんによる『かぐや姫のお話』。

カメラスケッチ

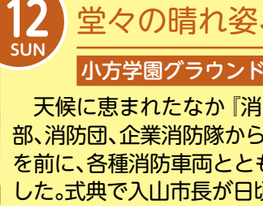
1市長、消防長、消防団長の観閲 2先導する消防副団長 3前へ進め 4一斉放水が描く虹 5料飲同業組合が振る舞ったうどん 6お手製のレスキュー隊のいでたち。

1/12 SUN

堂々の晴れ姿、出初式

小方学園グラウンド

天候に恵まれたなか『消防出初式』が挙行され、消防本部、消防団、企業消防隊から約200人が集結。多くの観覧者を前に、各種消防車両とともに堂々と行進する姿を見せました。式典で入山市長が日頃の訓練や活動に敬意と感謝の意を表し「万一に備え、訓練、準備に万全を期すようお願いします」と式辞。小方小3年の米田亜蓮くんは「お父さんが消防団なので見に来ました。消防車はすごくかっこよかった」と目を輝かせていました。式典後は料飲同業組合がうどん、おむすびを振る舞ったり、広島市消防局の高度特別工作車を前に記念撮影をしたりしていました。



7新入団員紹介 8大竹中と小方中吹奏楽部が合同演奏を披露 9企業の化学高所放水車 10化学高所放水車をリモート操作 11防火服で記念撮影 12市制施行70周年を祝う消防団長手作りのくす玉。

紙粘土を丸くこねてようじに刺します。おびれは烏帽子をかぶせるため、紙粘土に刺したようじが飛び出るようにしています。

1月16日　木野両国橋下流河原で3月9日（日）に開催される『ひな流し』で流す「おびな」と「めびな」の頭作りが大瀧神社氏子会館で行われました。青少年育成市民会議のメンバー14人が参加し、4時間でおよそ900組を作り上げました。子どもの成長と健康を願い、紙粘土や色紙で形作った流しびなを、わらで作った桟俵に乗せて川に流す『ひな流し』。同会のひな委員長を務める泉須美子さん（93歳・写真右）は「ひな流しは子どもたちが神様に願いを託すものなので、それを作る私たちも子どもたちが健やかに成長していってほしいという願いを込めて作っています」とほほ笑みました。

生徒会のスローガン〝青春開花　咲かせろ自分の花〟にちなみ福寿草と校庭に咲くサザンカの絵も添えています。

12月22日　大瀧神社の新春を飾る巨大絵馬。大竹中学校美術部の生徒9人が描いた大作です。これまで描いていた日本画家の長野貢さんが一昨年に他界。跡を継ぐ形で、今回中学生が絵筆を執ることになりました。絵馬には干支（えと）の巳（み）年にちなんだヘビと弁財天が描かれています。美術部の井上珠宇（うう）さん（3年）は「白蛇は弁財天の化身といわれています。お互いが語り合っているような、おめでたい感じにしたいと思いました」。と創作の意図を話してくれ、権禰宜（ごんねぎ）の所瑠璃さんは「若い人の思いで描いてもらうことで、新しいスタートになれば」と喜んでいました。絵馬は1月中旬まで社殿の階段下に飾られ、その後は招魂社の横に移設されています。

イベントなどで撮影した写真は、「広報おおたけ」、市ホームページ、市公式SNSや市の刊行物で使用するほか、マスメディアなどに提供することがあります。